

生活科への期待



広島大学学校教育学部教授 溝上 泰

子どもは自分を取り巻く人的、物的環境との相互作用を通じて成長していく。生活科はこうした子どもの成長を教育的に高めることを目指す教科として誕生した。生活科を実践し子どもの育成を図るためにはどんな点に留意したらよいだろうか。

学習意欲を高める

新1年生はもちろんのこと低学年の子どもはみな新鮮な驚きをもって学校生活を楽しんでいる。先生に話しかけたり、友達に触れたり、運動場を思い切り走り回ったり、とにかく自分を発散させ身をもって対象にぶつかっていく。そして、新しいものをどしどし取り入れている。このように子どもは本来活動的であり体験することを好むものである。生活科では子どもの特性を生かし、子どもの胸に「発見マン」としての大きなバッチを付け、学校や身近な地域に放牧させてみよう。

人びとや動植物とお友だちになる

子どもにとって独占したいもの、秘密にしたいものがある。それは子どもが自分の手や足、目、耳、鼻を通して見つけた宝物である。

子どもはそれをしまい込んでおきたいと思うけど、一方、友だちや先生に見てもらいたいという気持ちがはたらく。例えば、子どもが見つけたザリガニへの愛着は深い。自分の友達か分身のようにかわいがり、「ペコ」ちゃんと呼ぶ。「ペコ」ちゃんがいかに大きく強いかということを友達に自慢するのである。

このように子どもは自分とのかかわりで、対象を取り込んでいく。そこには自分と対象との区別は見られない。

社会や自然から学びとる

自分が種を播き、朝な夕な水やりを欠かさなかった「へちま」や「ひまわり」がいつのまにか自分の背丈を越えて高く育ち大きな実や花をつけた。子どもは植物のすばやい成長に驚異の目で見張る。

近所の店のおばさんにもらった「おまけ」や魚やさんの呼び声、魚の陳列等に触れ、子どもは店の人の心や客へのサービスという生活のうえでの「よさ」に気付いていく。

このようにみえてくると、生活科は子どもの生活に密着した教科であるといえる。

教育実践基礎講座 (1)

学習指導のポイント

——理科の学習指導を通して——

広島市教育センター指導主事 越智文嗣

子どもの生き生きとした学習活動を創り出す授業は、どのように考え展開すればよいでしょうか。今回は、理科の学習指導を通してそのポイントを考えてみることにしましょう。

理科の学習を成立させるには

理科の授業を成立させるためには、図1の「理科の学習構造」に示すように、児童が自然の事物・現象に働きかけ、きまりを見つけ出すためにどのような指導をしていけばよいかを考えて、教材研究をすることが大切です。

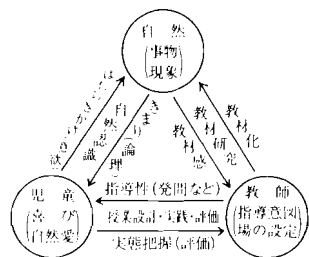


図1 理科の学習構造

言い換えるならば、授業は、

- ①何のために
- ②何を
- ③どのように

教えていくかということが明確にされなければ、児童の生き生きとした意欲的な学習活動は期待できません。

自然認識を深めていくための観察・実験

小学校学習指導要領理科第5学年には「音は、空気、水などを伝わり、広がっていくこと」「音の強さは、物の震える幅によって変わる」という内容があります。この内容を実験や観察を通して調べる授業について考えてみましょう。まず、「空気中での音の伝わり方を調べてみよう」と児童に投げかけます。次の段階では、音の伝わり方を調べる手だてとして、例えば、実験1、2に示すような実験方法を児童と共に考えます。

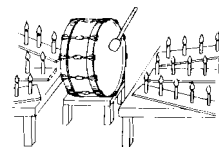
〔実験1〕

たいこをたたいて音を出し、たいこの鼓面や手に持った紙や下じきのようすを見る。また、音の強さを変えて見る。



〔実験2〕

ろうそくをたくさん用意して、たいこをたたいた時の炎のふるえを見る。また、音の強さが変わると炎のふるえ方は、どう変わるか見る。



この実験・観察により、児童は、たいこの鼓面が震えて音が出ており、それは、空気を伝わり、手に持った紙や下じきのところまで伝わってきていること、また、強い音では、たいこの鼓面、紙や下じき、炎の震える幅が大きいことを理解します。

この授業では、

- ①観察・実験を通して自然を調べる能力と態度を育てるために
- ②音の伝わり方と音の強さを
- ③児童自身の目や耳を通して

学ばせることにより、児童が意欲的に学習活動を進めながら自然認識を深めていきます。

一般に、学習は、外部からの刺激とその刺激を受け入れるところから始まります。授業では、学習目標を効果的に達成する刺激を与える学習環境をつくるため、教師は、教材研究に努めるとともに、児童が五感をより多く働かせて活動する授業を創造することが大切であると考えます。

単元の大きさ

年間の単元数は、第1学年では7、第2学年では8～9が一応のめやすであろう。1単元あたりの授業時数が10数時間ということ を考慮すると、生活科ではあまり小刻みに単元を構成しない方がよい。試行錯誤したり、失敗から学べるようなゆとりのある単元構成が望まれる。また、10数時間という長い期間にも耐えられるような活動を取り入れる必要がある。

単元の展開計画

子どもたちが生き生きと学ぶ生活科にするために、単元の展開計画では次のような工夫が求められる。

—**地域に根ざした活動**—

生活科は、子どもの日常の生活圏を学習の場とする。したがって、地域に即することなくして、生活科の展開はできないといえる。地域は教材の宝庫である。「生活科マップ」や「生活科暦」をもとに地域素材の教材化に努め、その学校でしかできない活動を構想することにより、生き生きと学ぶ生活科が可能となる。

—**子どもがやってみたいと思う活動から**—

単元の最初の活動は、子どもがやってみたいと思うものを設定するとよい。たとえば、次のような活動である。

学年	単元名	単元の最初の活動
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 公園で遊ぼう 学校めぐりをしよう 友達と作ろう 生き物を育てよう 遊ぶものを作ろう 	<ul style="list-style-type: none"> 公園で遊ぼう 学校探検をしよう 手作りおもちゃランドを開こう うさぎさんとなかよしになろう 昔の正月遊びをしよう

子どもは、自分がやってみたいという願いをもって取り組んだその活動を実現するために、対象への働きかけの仕方や、友達との協力の仕方をいろいろ工夫するものである。こうして子どもは、自分にできると考えた事柄を実際に試してみるし、また、友達とのかかわり方をさらに学んでいくことになる。その結果、願いを達成したときに味わう喜びはきわめて大きいものとなる。

—**子どもの疑問を引き出す活動から**—

単元の最初の活動は、子どもの興味や関心を引くものに加えて、子どもの疑問を大切にしたものを設定するとよい。たとえば、次のようなものである。

学年	単元名	単元の最初の活動
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> とびだせ探検隊 ほくらの世界を駆けよう わたしの町を調べよう 秋の祭りをしよう 	<ul style="list-style-type: none"> 春の公園を探検しよう 秋の学区探検をしよう 春を見つけに出かけよう さつまいもはどうなっているだろう

—**子どもの意識の流れに沿った活動構成を**—

活動や体験を通して学ぶという生活科の特色が生きるためには、細切れでつながりのない活動であってはならない。一つの活動が次の活動への意識付けとなって無理なくつながり、しかも活動が広がり深まっていくようにすることが大切である。その例を示してみる。

第2学年 単元「○○の町を探検しよう」

- ① 友達の家をさがそう
- ② 探検隊をつくろう
- ③ 探検隊出発だ
- ④ 探検地図をつくろう
- ⑤ 探検発表会を開こう

—**多様な表現活動を**—

生活科では、ただ単に活動が楽しいとか、子どもが生き生きとしていたという段階にとどまっていたはならない。活動を通して分かったり、気付いたりすることが求められている。このため単元の中に表現活動が設定されることになるが、その際には単元の目標に応じて多様な表現活動を設定する必要がある。

—**単元の中心には総合的な活動を**—

単元の中心には総合的な活動を設定するとよい。たとえば、「子ども水族館を作ろう」では、招待状もいるし、切符もポスターもいる。案内係もいるだろう。そこには、多様な活動や体験があり、総合的な学習へと発展していく可能性がある。このような総合的な活動であれば、子どもたちは、次々と活動を展開していくに違いない。そして、結果的に単元のねらいが達成されることになる。

特集 自立への基礎を築く教育

教育環境と教師の役割

—「主体的な遊びを育てる環境に関する研究」から—

広島市立矢野幼稚園長 佐々木 尚 美

生きるための基礎となる力を育てるためには、子どもが主体的にかかわり、発達に必要な体験を得るような教育環境をつくり出すことが重要である。そのためには、教師は子どもの生活する姿を明確に捉え、その発達を促すためのよりよい教育環境を創意工夫することが大切である。

そこで、教師の子どもの育ちへの願いや教師から見た子どもの姿を調査し、教育環境を構成していくうえでの教師の役割を考察してみた。

子どもの育ちへの願い

教師がもつ子どもの育ちへの願いについては、表1に示すとおりである。全体的には、特に「思いやりがあり、やさしい子」への願いが強い。教師の経験年数別にみると、A群（経験年数0～10年）は、「進んで遊びや活動に取り組む子」「表情が豊かで表現力のある子」など主体性や心豊かな表現力を願い、B群（経験年数10年以上）は、「友達と元気に遊ぶ」「健康で明るく活発な子」「根気強くがんばりのある子」など心や体のたくましさへの願いが強いことが捉えられた。

表1 子どもの育ちへの願い (%)

選 択 項 目 (2項目選択)	A群	B群
①健康で明るく、活発な子	18.4	23.1
②思いやりがあり、やさしい子	71.4	56.4
③友だちと元気に遊ぶ子	20.4	28.2
④自分のことは自分でできる子	8.2	15.4
⑤進んで遊びや活動に取り組む子	24.5	15.4
⑥素直で従順な子	2.0	0.0
⑦根気強く、がんばりのある子	16.3	23.1
⑧誰からも好かれ、子どもらしい子	6.1	20.5
⑨表情が豊かで、表現力のある子	22.5	17.9
⑩その他、無回答	10.2	0.0

N = A群(経験年数0～10年) 49名、B群(経験年数11年以上) 39名

子どもの姿

子どもについて感じていることを調査したものが表2である。これによると最近の子どもには「困難に立ち向かっていく力や耐える力、根気」「物を大切にできる気持ち」「協調性や社会性」などのうすれを感じ、その主な要因をたずねると「物の豊かさ」「生活環境の変化」をあげている。また、最近の子どもの特長ともいえる「知識が豊富」「リズム感がよい」「自己主張ができる」などが優れた面として捉えられている。

表2 最近の子どもの姿

○ うすれてきていると思われること (2項目選択) (%)	
① 困難に立ち向かっていく力や耐える力、根気などがうすれてきている	39.8
② 物を大切にしたり扱ったりする気持ちがうすれてきている	38.6
③ 自己中心で独占欲が強く、協調性や社会性がうすれてきている	29.5
○ 優れていると思われること (自由記述)	
① 知識が豊富である (文字・数を覚えるのが早い、物知り)	34.3
② リズム感がよい (音に敏感である、歌をよく知っている)	11.4
③ 自分の思っていることをはっきり表現できる	10.7

N = 88名

教師の役割

調査結果の背景には、生活環境の変化による子どもの受身的・消極的な生活態度や対人関係の希薄さがうかがえる。環境を通して行うことを基本とする幼稚園教育においては、今日のこうした子どもの特長を捉えながら、環境を構成する教師の役割として次のことを大切にしなければならない。

- ① 子どもを温かく見守ることにより教師との信頼関係を育て、その支えにより友達とのかかわりを広げ、深める。
- ② 子どもの興味や関心に基づいた主体的な創造活動、すなわち主体的な遊びを育てる場を確保し、充実感や満足感を体験させる。

(前広島市教育センター指導主事)

教育実践基礎講座 (1)

学習指導のポイント

——理科の学習指導を通して——

広島市教育センター指導主事

越智文嗣

子どもの生き生きとした学習活動を創りだす授業は、どのように考え展開すればよいでしょうか。今回は、理科の学習指導を通してそのポイントを考えてみることにしましょう。

理科の学習を成立させるには

理科の授業を成立させるためには、図1の「理科の学習構造」に示すように、児童が自然の事物・現象に働きかけ、きまりを見つけ出すためにどのような指導をしていけばよいかを考えて、教材研究をすることが大切です。

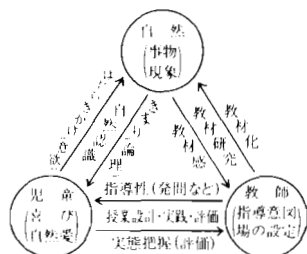


図1 理科の学習構造

言い換えるならば、授業は、

- ①何のために
- ②何を
- ③どのように

教えていくかということが明確にされなければ、児童の生き生きとした意欲的な学習活動は期待できません。

自然認識を深めていくための観察・実験

小学校学習指導要領理科第5学年には「音は、空気、水などを伝わり、広がっていくこと」「音の強さは、物の震える幅によって変わる」という内容があります。この内容を実験や観察を通して調べる授業について考えてみましょう。まず、「空気中での音の伝わり方を調べてみよう」と児童に投げかけます。次の段階では、音の伝わり方を調べる手だてとして、例えば、実験1、2に示すような実験方法を児童と共に考えます。

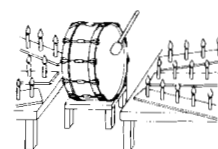
〔実験1〕

たいこをたたいて音を出し、たいこの鼓面や手に持った紙や下じきのようすを見る。また、音の強さを変えて見る。



〔実験2〕

ろうそくをたくさん用意して、たいこをたたいた時の炎のふるえを見る。また、音の強さが変わると炎のふるえ方は、どう変わるか見る。



この実験・観察により、児童は、たいこの鼓面が震えて音が出ており、それは、空気を伝わり、手に持った紙や下じきのところまで伝わってきていること、また、強い音では、たいこの鼓面、紙や下じき、炎の震える幅が大きいことを理解します。

この授業では、

- ①観察・実験を通して自然を調べる能力と態度を育てるために
- ②音の伝わり方と音の強さを
- ③児童自身の目や耳を通して

学ばせることにより、児童が意欲的に学習活動を進めながら自然認識を深めていきます。

一般に、学習は、外部からの刺激とその刺激を受け入れるところから始まります。授業では、学習目標を効果的に達成する刺激を与える学習環境をつくるため、教師は、教材研究に努めるとともに、児童が五感をより多く働かせて活動する授業を創造することが大切であると考えます。

教育センターひろば

今年度前期は次の5名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

***社会科教育：**庄野英憲教諭（本川小）

研修題目：地域社会と外国とのかかわりに気付かせるための体験的な学習の在り方

***理科教育：**板敷憲政教諭（五日市観音小）

研修題目：理科学習における地域素材の活用に関する研究

***数学科教育：**寺内茂光教諭（三和中）

研修題目：中学校数学科課題学習での課題設定の在り方に関する研究

***美術科教育：**山口浩幸教諭（矢野中）

研修題目：観察による表現力を高める指導法の研究

***技術・家庭科教育：**岸業康成教諭（大州中）

研修題目：制御学習における論理回路の指導法に関する研究

***離退任**

～在任中はお世話になりました～

原田力次長（五日市南小学校長へ）

竹本建治指導主事（南観音小学校教諭へ）

長谷川尚徹指導主事（亀山中学校教諭へ）

佐々木尚美指導主事（矢野幼稚園長へ）

米海谷恭子主事（緑政課主事へ）

温田家弘研修指導員（退職）

***就任**

～どうぞよろしく～

國政通男次長（市教委指導課から）

井崎明指導主事（竹屋小学校から）

東和子指導主事（上緑井幼稚園から）

保本早苗主事（市教委経理課から）

山田年康教育相談員（前美鈴が丘高等学校長）

片山貞昭研修指導員（前中島小学校長）

部	事業等	職名	氏名	担当業務
		所次長	貞金 明 國政 通男	所務総括 所務管理・執行
管理部	庶務・経理	主任	畑野 孝治	部内総括、 施設設備の維持・管理
		主事	保本 早苗	公印、給与、文書処理、 経理等
		主事	服部 和之	予算、決算、経理等
第一研修部	教育相談・広報	主任指導主事	宮河 治博	部内総括、障害児教育 特別活動、同和教育、 社会教育
		指導主事	松田 了子	生徒指導、教育相談
		指導主事	東 和子	幼稚園教育
		指導主事	三原 裕隆	生徒指導、教育相談
		指導主事	勲田 九豊生	教育相談
		指導主事	勲森 野詩	教育相談
		教育相談員	末森 男	教育相談
		教育相談員	久保田 香	教育相談
		教育相談員	山田 年康	教育相談
第二研修部	研究・教育関係	主任指導主事	福原 敏治郎	部内総括、 外国語(英語)科
		指導主事	民安 和昭	算数科、数学科
		指導主事	松浦 克行	教育工学、視聴覚教育
		指導主事	財津 伸子	国語科
		指導主事	吉竹 邦昭	社会科、道徳
		研修指導員	中田 昭吉	教育工学、視聴覚教育
図書資料室嘱託	大下 千賀子	図書資料関係事務		
第三研修部	研 修	主任指導主事	中村 道徳	部内総括、企画、 家庭科、技術・家庭科
		指導主事	西川 勝士	理科
		指導主事	西村 達男	図画工作科、美術科
		指導主事	井崎 明	音楽科
		指導主事	越智 文嗣	理科
		研修指導員	木戸 義明	家庭科、技術・家庭科
研修指導員	片山 貞明	理科		

(兼)は兼務

題 字 広島市立国泰寺中学校長 登 雄二

表紙絵 広島市立毘沙門台小学校長 香川 龍介

～ 8時15分～

編集後記

本年度最初の所報は、「自立への基礎を養う教育」について特集しました。また、今回から「教育実践基礎講座」を連載することになりました。教育実践に役立っていただければ幸いです。